『言語情報学研究報告』No.4（2004）

ポルトガル語 — ポルトガルとブラジルの標準的変種[1]

牧野　真也
（神奈川大学非常勤講師）

1. ポルトガル語の使用地域と人口

ポルトガル語は 15 世紀以降の海洋貿易と植民地支配によって全世界にその使用圏を拡大した。現在，話者の総人口約 1 億 9100 万人のうち，ポルトガル語を母語とする人々はおよそ1億7600万人で，残りの約1500万人は第二言語として用いている（UNESCO推定）。ポルトガルとブラジルでは大多数の国民の母語であり，かつ，公用語として用いられている。他方，1974 年までポルトガルの植民地であったアンゴラ，モサンビーク，カーボ・ベルデ，ギニア・ビサウ，サン・トメ・イ・プリンシペは，独立後，公用語としてポルトガル語を（より正確にはポルトガルの標準的規範を）採用したが，国民の大部分はそれと異なる言語を母語として話している。東南アジアの東ティモールも 2002 年 5 月の独立以後，公用語としてポルトガル語を採用した。その他，フランス・ドイツ・ベルギー・ルクセンブルグやアメリカ合衆国・カナダなどのヨーロッパ・北アメリカ諸国には，ポルトガル語を母語とする移民の大規模なグループが存在する。

2. ポルトガル語の規範と方言

2.1 規範

規範 norma を「ある特定の言語共同体において，そこに属する人々の大部分によって容認された一般的・標準的慣用の全体」と捉えるなら，ひとつの言語にも地域的・社会的にさまざまな規範が存在しうる。だが「公的な場で排他的に用いられ，学校で教授される標準的規範」すなわち「モデル・模範となる規範」は，国内で特権的な地位にある地域において，社会的に支配力・決定力のある階層によって話される変種に一致することが多い。

ポルトガルの場合，標準的規範は，地理的にはリスボンとコインブラにおいて，社会的には高等教育を受けた人々によって話される変種である。リスボンは首都であることにより，コインブラはその大学の文化的威信と，大学を通じて全国に及ぼしてきた影響によって標準的規範の形成地となってきた（1290 年リスボンに創設されたヨーロッパ最古の大学のひとつであり，その数年後コインブラに移転したのち，両都市の間を何度か往復しながら，1537 年最終的に後者に設置される。1911 年にリスボン大学が創立されるまで国内唯

[1]監修者　黒澤直俊東京外国語大学教授。本稿は「東京外国語大学 21 世紀 COE 言語運用を基盤とする言語情報学拠点 2004 年度第 4 回定例研究会 2004 年 5 月 31 日（月）」における報告を基にして執筆された。

一の総合大学であった)。

他方，ブラジルは 1530 年代に入植が開始されてから 300 年以上の間，全体が巨大な農村社会であった。大都市は存在せず，人口密度の低い市町はほとんどが沿岸部に位置しており，かつ，標準的規範を拡散させる中心地となるような文化的重要性をもたなかったため，内陸部に拡散した集落に言語的影響力を行使することはなかった。大学も設置されず，初等・中等教育が行われていた学校の数も限られており，1808 年になるまでは印刷物すら存在せず，住民の多くが文盲であった。このため，口頭言語は広大な領土に散在する集落で多様化へ向かう変化をたどってゆく。状況が変わり始めるのは，19 世紀後半以降に生じた中産階級の台頭による社会構造の変化である。国民生活において都市が規範的な影響力を行使し始めるようになり，その影響力は，沿岸市町部の急成長による巨大都市の出現とテレビ・ラジオなどのマス・メディアの急速な普及によって，急激に増していくことになる。同時に，かつて農村部における多様性に特徴づけられていたブラジルの言語状況は，都市による言語的一様化によって変化を受けていくようになった（CUNHA)。

今日では，リオ・デ・ジャネイロ，サン・パウロ，レシーフェ，サルバドール，ポルト・アレーグレ，ベロ・オリゾンテなど沿岸寄りの主要都市がブラジルの文化的中心であり，文化的にそこに依存している他の広大な地域へそれぞれの規範を拡散させる中心地となっている。またブラジルでは，いわゆる垂直方向の社会的な層化が著しく，同一地域においても社会方言間の変異が非常に大きい。そのため，教育を受けた人々によって話される言語を習得しなければ社会的向上の可能性が制限されることから，そのような変種が各言語的中心地での標準的規範とみなされている（CUNHA)。

この記述では，ブラジルの標準的規範としてはリオ・デ・ジャネイロとサン・パウロにおいて，ポルトガルの標準規範としてはリスボンとコインブラにおいて，教育を受けた人々によって話される変種を取り上げることにする。

2.2 方言

2.2.1 ポルトガル

ポルトガル語は，ガリシア語とともに，俗ラテン語がイベリア半島の北西部（ポルトガルのドーロ川以北＋スペイン・ガリシア地方）で独自の変遷を経て成立した言語 galego-português を起源とする。現在でもポルトガル語の諸方言はガリシア語の諸方言と多くの言語特徴を共有し，そのため，ポルトガル語の方言分類では，それら二言語の諸方言を同じひとつの言語圏に含めて考えることが多い。この言語圏はいくつかの音声・音韻特徴にしたがって 3 つの主要な方言群に分類される。すなわち「ガリシア語の諸方言」「ポルトガル語の北部諸方言」「ポルトガル語の南部諸方言」である。ガリシア語の諸方言は次の特徴により，ポルトガル語の北部・南部諸方言から区別される（CINTRA)。

①無声舌頂音 coronal の摩擦音（**[θ, s̪] [s̪] [ʃ]** など）と弁別的に対立する有声音（**[ð, z̪] [z̪] [ʒ]**）

を持たない。また，ポルトガル語の諸方言において無強勢音節で **[ɨ] [u]** に変化した古い時代の **[e] [o]** の多くが残存している。

つぎに，ポルトガル語の枠内において北部諸方言は次の諸特徴により南部諸方言と区別される。

②南部諸方言が有する対立 **/b/-/v/** をもたない。この 2 音素に対応するただ 1 つの音素 **/b/** の実現は音環境によって **[b]** ~ **[β]** の変異を示す。
③南部諸方言が失った舌尖音 **[s̪] [z̪]**（apical）を有している。これらの舌尖音**[s̪] [z̪]** は音素 **/s/ /z/** の地域的異音の場合もあれば（南部諸方言では舌端音 **[s̻] [z̻]**（laminar）で実現される），舌端音 **[s̻] [z̻]** と弁別的対立をなす場合もある（Trás-os-Montes 地方など）。
④南部諸方言が失った音素連続の **/ow/**（表記 **ou**）と **/ej/**（表記 **ei**）を保持している。後者は地域によっては **/ɐj/** に置き換えられている。
⑤南部諸方言で失われた対立 **/t͡ʃ/-/ʃ/**（表記 **ch-x**）が残存している地域がある。

2.2.2 ブラジル

一般に，強勢前音節の **/E/ /O/**（*meter*「入れる」；*morar*「住む」）が狭い **[e] [o]** で実現されるか，広い **[ɛ] [ɔ]** で実現されるかにしたがって，ブラジル全土を南部（セルジーペとバイーアを含めた南東部・南部）と北部に区分することが可能であると考えられている。

また，ブラジル全土ではないが，北東部のペルナンブーコ州から南部のリオ・グランデ・ドゥ・スル州にいたる人口密集地帯の東部海岸（この地帯がもつ規範的重要性については 2.1 を参照のこと）を対象として，主要都市のレシーフェ，サルバドール，リオ・デ・ジャネイロ，サン・パウロ，ポルト・アレーグレ（この順に南下）で教養階層によって話される変種の音声特徴に基づいた等音線を引くことが可能である（CALLOU & LEITE）。

①音節尾部における **r** の実現（*carta*「手紙」；*carne*「肉」；*falar*「話す」）
②音節尾部における **s, z** の実現（*gosto*「味」；*pés*「両足」；*voz*「声」）
③音節尾部における **l** の実現（*alto*「高い」；*caldo*「スープ」；*sol*「太陽」）

①と②によって同地帯を，サンパウロ以南とリオ・デ・ジャネイロ以北の南北に区分することが可能である。南部では **r** が前方で（主として **[ɾ]** で）調音され，**s, z** が **[s]** ~ **[z]** で実現されるのに対し，北部では **r** が後方で（主として **[x]** ~ **[h]** で）調音され，**s, z** が **[ʃ]** ~ **[ʒ]** で実現されることが多い。さらに③によって，南部グループを最南部のポルト・アレーグレとそれ以外のサン・パウロを中心とする地域に分割することが可能である。後者では，**l** が他地域と同じくもっぱら「半母音」の **[w]** で実現されるのに対し，前者では「子音」の **[ɫ]** ~ **[l]** と **[w]** の生起率が拮抗している（5.13.1 と 5.13.2 を参照）。

3. 文字と発音

略号 P はポルトガル変種の発音を，B はブラジル変種の発音を表す。両者が等しい場合は P&B で示すか無表示である。ブラジル変種の枠内でリオ・デ・ジャネイロ変種とサン・パウロ変種の発音に違いがある場合は，それぞれ RJ と SP で示す。

3.1 アルファベット alfabeto

左がポルトガル変種での発音，右がブラジル変種での発音である。

A a	[ˈa]	[ˈa]	**N n**	[ˈɛnɨ]	[ˈeni]
B b	[ˈbe]	[ˈbe]	**O o**	[ˈɔ]	[ˈɔ]
C c	[ˈse]	[ˈse]	**P p**	[ˈpe]	[ˈpe]
D d	[ˈde]	[ˈde]	**Q q**	[ˈke]	[ˈke]
E e	[ˈɛ]	[ˈɛ]	**R r**	[ˈɛʀɨ]	[ˈɛxi]
F f	[ˈɛfɨ]	[ˈɛfi]	**S s**	[ˈɛsɨ]	[ˈɛsi]
G g	[ˈge]~[ˈʒe]	[ˈge]~[ˈʒe]	**T t**	[ˈte]	[ˈte]
H h	[ɐˈɣa]	[aˈga]	**U u**	[ˈu]	[ˈu]
I i	[i]	[i]	**V v**	[ˈve]	[ˈve]
J j	[ˈʒɔtɐ]	[ˈʒɔta]	**W w**	[ˈdɐβliu]~[dupluˈve]	[ˈdabliu]~[dupluˈve]
K k	[ˈka(pɐ)]	[ˈka(pa)]	**X x**	[ˈʃiʃ]	RJ[ˈʃiʃ] SP[ˈʃis]
L l	[ˈɛlɨ]	[ˈɛli]	**Y y**	[iˈɣreɣu]~[ˈipsilɔn]	[iˈgɾegu]~[ˈipsilon]
M m	[ˈɛmɨ]	[ˈemi]	**Z z**	[ˈze]	[ˈze]

一般に K k, W w, Y y は外来語，略号，一部の人名にしか用いられない。

3.2 文字・文字群の音価

文字・文字群と対応する音価を対応表の形で示す.

表記	変種	音価	実例
A a	P&B	**[a]**	*dado*
		[ɐ]	*dano*
	P	**[ɐ]**	*vazio, boca*
	B	**[a]**	
Â â	P&B	**[ɐ]**	*ânimo*
Á á	P&B	**[a]**	*máximo*
À à			*àquilo*
AI ai	P&B	**[aj]**	*pai*
	P	**[ɐj]**	*maior*
	B	**[aj]**	

Ã ã	P&B	**[ɐ̃]**	*lã*
Am am			*campo*
An an			*dança*
Ãe ãe	P&B	**[ɐ̃j̃]**	*mãe*
Ãi ãi			*cãibra*
Ão ão	P&B	**[ɐ̃w̃]**	*virão*
Am am			*viram*
AU au	P&B	**[aw]**	*pau*
B b	P&B	**[b]**	*bater*
	P	**[β]**	*caber*
C c	P&B	**[k]**	*capa*

C c	P&B	**[s]**	*cedo*
	P	ゼ゛ɒ	*director*
Ç ç	P&B	**[s]**	*cabeça*
CH ch	P&B	**[ʃ]**	***ch**á*
D d	P&B	**[d]**	***d**ata*
	P	**[ð]**	*re**d**e*
	B	**[d͡ʒ]**	***d**ia, re**d**e*
E e	P&B	**[e]**	*se**d**e*「渇き」
		[ɛ]	*se**d**e*「本拠地」
		[i]	*exemplo*
	P	**[ɨ]**	*me**t**er, pêssego*
	B	**[e]**	
	P	**[ɨ]**	*de**n**te*
	B	**[i]**	
	P	**[ɐ(j)]**	*fecho, seja,*
	B	**[e]**	*telha, venho*
	P	ゼ゛ɒ	*estar, esboço*
	B	**[i]~[e]**	
	P	ゼ゛ɒ~**[ɐj]**	*expor*
	B	**[i] ~ [e]**	
Ê ê	P&B	**[e]**	*fêmea*
É é	P&B	**[ɛ]**	*pérola*
EI ei	P	**[ɐj]**	*se**i**s, amêijoa*
ÊI êi	B	**[ej]**	
ÉI éi	P	**[ɐj]~[ɛj]**	*papéis*
	B	**[ɛj]**	
EM em	P&B	**[ẽ]**	*se**m**pre, pe**n**sar*
EN en	P&B	**[ẽ]~[ĩ]**	*e**m**bora, e**n**tão*
	P	**[ẽj̃]**	*viage**m**, te**n**s*
	B	**[ẽj̃]**	
ÊM êm	P	**[ɐ̃j̃ɐ̃j̃]**	*tê**m**, vê**m***
	B	**[ẽj̃]**	
EU eu	P&B	**[ew]**	*se**u***
ÊU êu			*terapê**u**tico*
ÉU éu	P&B	**[ɛw]**	*cé**u***

F f	P&B	**[f]**	*fo**f**o*
G g	P&B	**[g]**	***g**ato*
	P	**[ɣ]**	*la**g**o*
	P&B	**[ʒ]**	***g**ente*
GU gu	P&B	**[g]**	***gu**erra*
	P	**[ɣ]**	*se**gu**ir*
	P&B	**[gw]**	***gu**arda*
	P	**[ɣw]**	*a**gu**entar*
GÜ gü	B	**[gw]**	*a**gü**entar*
H h	P&B	ゼ゛ɒ	***h**aver*
I i	P&B	**[i]**	*vi**d**a, di**z**er*
	P	**[ɨ]**	*mi**n**istro*
IM im	P&B	**[ĩ]**	*fi**m**, ri**n**s*
IN in			
IU iu	P&B	**[iw]**	*vi**u***
J j	P&B	**[ʒ]**	***j**ovem*
L l	P&B	**[l]**	*lã, flor*
	P	**[ɫ]**	*fa**l**ta*
	B	**[w]**	
LH lh	P&B	**[ʎ]**	*ve**lh**o*
M m	P&B	**[m]**	***m**au*
		[˜]	*bo**m*** **[ˈbõ]**
N n	P&B	**[n]**	***n**ada*
		[˜]	*bo**n**s* **[ˈbõʃ]**
NH nh	P&B	**[ɲ]**	*ba**nh**o*
O o	P&B	**[ɔ]**	*molho*「東」
		[o]	*molho*「ソース」
		[u]	*átomo, goela*
	P	**[u]**	*mo**r**ar*
	B	**[o]**	
Ô ô	P&B	**[o]**	*avô*
Ó ó	P&B	**[ɔ]**	*avó*
ÕE õe	P&B	**[õj̃]**	*põe*
ÕEM õem	P	**[õj̃ɐ̃j̃]**	*põe**m***
	B	**[õj̃]**	

OI oi	P&B	**[oj]**	***sois***
ÓI ói	P&B	**[ɔj]**	***sóis***
OM om **ON on**	P&B	**[õ]**	***som, bons***
OU ou	P&B	**[o]**	***vou***
	B	**[o(w)]**	
P p	P&B	**[p]**	***papel***
	P	ゼ゛ロ	*adoptar*
QU qu	P&B	**[k]**	***quente***
	P	**[kw]**	*freq**u**ente*
QÜ qü	B	**[kw]**	*freq**ü**ente*
R r	P&B	**[ɾ]**	*caro, prato*
	P	**[ʀ]~[r]**	***r**aro, gen**r**o,*
	B	**[x]~[h]**	*guelra, Israel*
	P&SP	**[ɾ]**	*carta, dizer*
	RJ	**[x]~[h]**	
RR rr	P	**[ʀ]~[r]**	*carro*
	B	**[x]~[h]**	
S s	P&B	**[s]**	*saber, falso*
		[z]	*casa, os ovos*
	P&RJ	**[ʃ]**	*festa, pés,*
	SP	**[s]**	*os porcos*
	P&RJ	**[ʒ]**	*mesmo, os bois*

S s	SP	**[z]**	*mesmo, os bois*
SC sc	P	**[ʃs]~[ʃ]**	*descer* (sc+ e, i)
XC xc	B	**[s]**	*excepto* (xc+ e, i)
SS ss	P&B	**[s]**	*passo*
T t	P&B	**[t]**	*tempo*
	P	**[t]**	*tio, gente*
	B	**[t͡ʃ]**	
U u	P&B	**[u]**	*duro, mudar*
UI ui	P&B	**[uj]**	***fui***
		[ũj̃]	***muito, mui*** のみ
UM um **UN un**	P&B	**[ũ]**	*tumba, mundo*
V v	P&B	**[v]**	*viver*
X x	P&B	**[ʃ]**	*deixar, xarope*
		[s]	*próximo*
		[z]	*exame*
		[ks]	*complexo*
Z z	P&B	**[z]**	*zona, cozer, voz alta*
	P&RJ	**[ʃ]**	*voz, voz fina*
	SP	**[s]**	
	P&RJ	**[ʒ]**	*voz meiga*
	SP	**[z]**	

4. ポルトガル語の音節

4.1 音節構造の一覧

ここでは，それのみで音節を構成することが可能であり，音節の形成に欠かせない音 fone を母音と称し，それのみでは音節を構成できず，音節内で常に母音の前後に位置しながら音節の構成に加わる音を子音と呼ぶことにする。したがって，ここでいう母音・子音とは音節を形成する上での機能に基づいた分類である。以上を踏まえた上で，母音を **V**，子音を **C** で表すと，ポルトガル語の音節構造としては，次のような組み合わせが認められる（右欄の実例では音節の境界を－で，該当する音節を太字で示す）。

音節構造	実例
V	***é***「…である」：*ser* の直・現・Ⅲ・単，***o-lhar***「見る」，*sa-**í**-da*「出口」
VC	***és***「…である」：*ser* の直・現・Ⅱ・単，***an-dar***「歩く」，*di-**ur**-no*「日中の」
VCC	***eis***「ここに…がいる・ある」，*a-nu-**ais***「一年間の」：*anual* の複数形
CV	***má***「悪い」：*mau* の女性形，***pe-dir***「頼む」，*ó-**di**-o*「憎しみ」，*a-**vô***「祖父」
CVC	***sul***「南」，***mai-or***「より大きい」，*A-**gos**-to*「八月」，*be-**ber***「飲む」
CVCC	***pais***「両親」，***pers-pi-caz***「洞察力のある」，*e-**xaus**-to*「疲れきった」， *com-**põe*** **/-ˈpOjN/**「組み立てる」：*compor* の直・現・Ⅲ・単
CVCCC	***mãos*** **/ˈmAWNS/**「手」，*o-**pões*** **/-ˈpOjNS/**「対立させる」：*opor* の直・現・Ⅱ・単
CCV	***cru***「生の」，***qua-li-da-de***「質」，*a-**tra**-ir*「惹きつける」，*du-**plo***「2 倍の」
CCVC	***qual***「どれ」，***tres-pa-ssar***「譲る」，*im-**plan**-tar*「植えつける」
CCVCC	***quais***「どれ」：*qual* の複数形，***trans-por-te***「運ぶこと」
CCVCCC	***trens*** **/ˈtRajNS/**「馬車の一種」：*trem* の複数形（ブラジルでは **/ˈtRENS/**「列車」）， *la-**drões*** **/-ˈdROjNS/**「泥棒」：*ladrão* の複数形

4.2 音節構造の傾向

ポルトガル変種を対象にした調査（VIGÁRIO & FALÉ）によると，開音節，とくに音節頭部が子音 1 つからなる **CV** が支配的である。調査結果によると，多音節語に現れる 7109 音節のうち，表 1 の 12 タイプだけで全体のほぼ 94%を占め，残り 6%が 60 の異なるタイプによって占められている。

表 1

音節タイプ	%
C V	52.8
C V/S/	8.7
V	7.4
C V/N/	6.0
C V/R/	5.6
C V/jN/, C V/wN/	3.2
C V/j/, C V/w/	2.3
V/S/	2.0
V/N/	2.0
/pR/V	1.9
/tR/V	1.2
C V/L/	1.0
合計	94.1

表 2

閉音節の尾部構造	%
/-S/ ([-ʃ]~[-ʒ])	10.7
/-N/ ([-˜])	8.0
/-R/ ([-ɾ])	5.6
/-jN/ ([-˜j̃]) + /-wN/ ([-˜w̃])	3.2
/-j/ ([-j]) + /-w/ ([-w])	2.3
/-L/ ([-ɫ])	1.0

上位 12 タイプが占める 94.1%のうち，63.3%が開音節，残りの 30.8%が閉音節であり，ポルトガル語における開音節優勢の傾向を示している。さらに閉音節の尾部に注目すると，/S/を除くすべてが鳴音で，阻害性の低い子音・子音群によって占められていることがわかるであろう（表 2）。頭部構造としては，開音節・閉音節を問わず，子音 1 つからなるタタイプが 78.6%で圧倒的多数を占めている。

5 ポルトガル語の母音と子音

母音音体系の特徴についての記述

5.1 母音体系の概略

ポルトガル変種で 8 音素，ブラジル変種で 7 音素が音質によって対立するが，あらゆる位置でこの対立が維持されているわけではない。母音音素は一般に単口母音として実現されるが，母音音素＋子音音素の実現として，音声学的に二重口母音，単鼻母音，二重鼻母音も認められる。

5.2 母音音素目録

母音音素による弁別の可能性は，強勢音節であるか，強勢前の無強勢音節であるか，強勢後の無強勢音節であるかによって異なる。以下では，ポルトガル語の音節として最も一般的な **CV** 音節（4.3）に現れる各母音体系の目録を提示する。

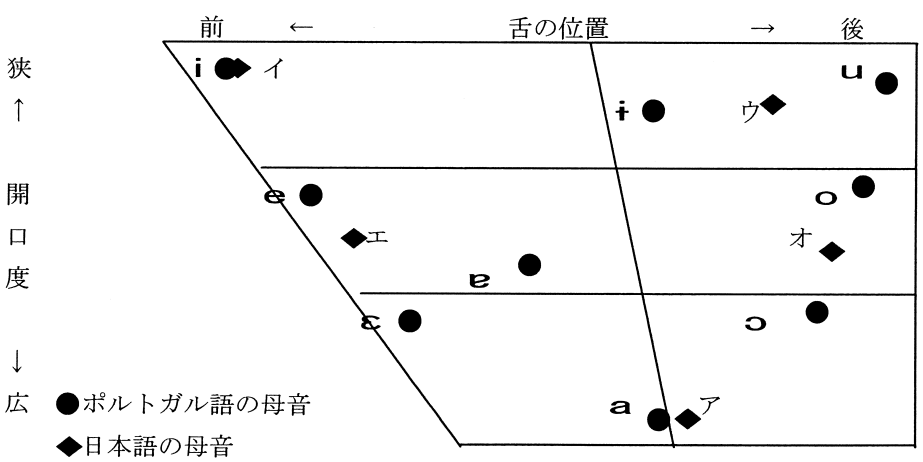
ポルトガル変種

音素	異音とその環境	用例
強勢を受ける開音節		
/i/	**[i]**	**[ˈpi]** *pi*（「円周率」）
/e/	**[e]**	**[ˈpe]** *pê*（「アルファベットのＰ」）
/ɛ/	**[ɛ]**	**[ˈpɛ]** *pé*（「足」）
/ɐ/	**[ɐ]**	**[pɐˈɣɐmuʃ]** *pagamos*（「私たちは払う」：*pagar* の直・現・Ⅰ・複）
/a/	**[a]**	**[pɐˈɣamuʃ]** *pagámos*（「私たちは払った」：*pagar* の直・完過・Ⅰ・複）
/ɔ/	**[ɔ]**	**[ˈpɔðɨ]** *pode*（「彼／あなたはできる」：*poder* の直・現・Ⅲ・単）
/o/	**[o]**	**[ˈpoðɨ]** *pôde*（「彼／あなたはできた」：*poder* の直・完過・Ⅲ・単）
/u/	**[u]**	**[ˈpuðɨ]** *pude*（「私はできた」：*poder* の直・完過・Ⅰ・単）
強勢前の開音節		
/i/	**[i]**	**[briˈɣaɾ]** *brigar*（「けんかをする」）
/e/	**[ɨ]**	**[prɨˈɣaɾ]** *pregar*（「釘・鋲でとめる」）
/ɛ/	**[ɛ]**	**[prɛˈɣaɾ]** *pregar*（「説教を行う」）
/ɐ/	**[ɐ]**	**[mɐˈðɐjɾɐ]** *madeira*（「木材」）
/a/	**[a]**	**[paˈðɐjɾɐ]** *padeira*（「パン屋（女性）」）
/ɔ/	**[ɔ]**	**[kɔˈɾaðɐ]** *corada*（「顔の赤くなった」：形・女性）
/o/	**[o]**	**[koˈɾasɐ]** *couraça*（「甲羅」）
/u/	**[u]**	**[kuˈɾaðɐ]** *curada*（「病気から回復した」：形・女性）
強勢後の語末開音節		
/i/	**[i]**	**[ˈʒuɾi]** *júri*（「陪審員団」）
/E/	**[ɨ]**	**[ˈʒuɾɨ]** *jure*（「私／彼は誓う」：*jurar* の接・現・Ⅰ／Ⅲ・単）
/A/	**[ɐ]**	**[ˈʒuɾɐ]** *jura*（「彼は誓う」：*jurar* の直・現・Ⅲ・単）
/U/	**[u]**	**[ˈʒuɾu]** *juro*（「私は誓う」：*jurar* の直・現・Ⅰ・単）

ブラジル変種

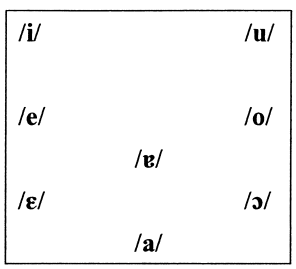
音素	異音とその環境	用例
強勢を受ける開音節		
/i/	**[i]**	**[ˈpi]** *pi*（「円周率」）
/e/	**[e]**	**[ˈpe]** *pê*（「アルファベットのＰ」）
/ɛ/	**[ɛ]**	**[ˈpɛ]** *pé*（「足」）
/a/	**[a] /m n ɲ/** の前以外	**[ˈpa]** *pá*（「スコップ」）
	[ɐ] /m n ɲ/ の前	**[ˈpɐnu]** *pano*（「布」）
/ɔ/	**[ɔ]**	**[ˈpɔd͡ʒi]** *pode*（「彼／あなたはできる」：*poder* の直・現・Ⅲ・単）
/o/	**[o]**	**[ˈpod͡ʒi]** *pôde*（「彼／あなたはできた」：*poder* の直・完過・Ⅲ・単）
/u/	**[u]**	**[ˈpud͡ʒi]** *pude*（「私はできた」：*poder* の直・完過・Ⅰ・単）
強勢前の開音節		
/i/	**[i]**	RJ**[piˈzax]** SP**[piˈzaɾ]** *pisar*（「踏む」）
/E/	**[e]**	RJ**[peˈzax]** SP**[peˈzaɾ]** *pesar*（「重さを量る」）
/a/	**[a]**	RJ**[paˈsax]** SP**[paˈsaɾ]** *passar*（「通る」）
/O/	**[o]**	RJ**[koˈɾax]** SP**[koˈɾaɾ]** *corar*（「顔が赤くなる」）
/u/	**[u]**	RJ**[kuˈɾax]** SP**[kuˈɾaɾ]** *curar*（「治療する」）
強勢後の語末開音節		
/ɪ/	**[i]**	**[ˈʒuɾi]** *jure ; júri*（「私／彼は誓う」：接・現・Ⅰ／Ⅲ・単；「陪審員団」）
/a/	**[a]**	**[ˈʒuɾa]** *jura*（「彼は誓う」：*jurar* の直・現・Ⅲ・単）
/U/	**[u]**	**[ˈʒuɾu]** *juro*（「私は誓う」：*jurar* の直・現・Ⅰ・単）

5.3 母音図による異音の表示

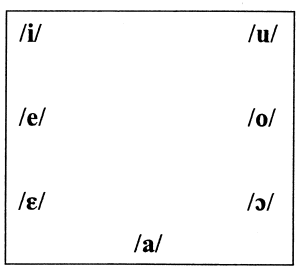


5.4 弁別可能性最大の体系について

母音音素による弁別の可能性が最大限に実現される位置，なかでも強勢開音節においては，ポルトガル変種で **/i e ɛ ɐ a ɔ o u/** の 8 音素が，ブラジル変種で **/i e ɛ a ɔ o u/** の 7 音素が対立する。対立は，調音的には開きと舌の位置の差による ― 音響的には第一フォルマントと第二フォルマントの差による ― 音質的なものである。いわゆる二重母音を長母音として解釈しなければ，日本語とは違って音長による対立は認められない（cf. 5.4.3）。



ポルトガル変種



ブラジル変種

5.4.1 対立 /e/-/ɛ/ と /o/-/ɔ/

ポルトガル語の母音音素体系の特徴のひとつとして，日本語とは違ってどちらの変種においても狭い **/e o/** と広い **/ɛ ɔ/** が弁別的に対立することが挙げられる。以下で最小対をいくつか挙げるが，開音節・閉音節を問わず，この他にも例は豊富である（ただし *pregar* - *pregar* や *pousar* – *posar* のような強勢前音節での対立はポルトガル変種のみに認められる。5.5.1 を参照）

/e/	/ɛ/
pê 「字母のＰ」	*pé*「足」
sede「渇き」	*sede*「本拠地」
cesta「かご」	*sesta*「昼寝」
colher「摘む」	*colher*「スプーン」
seu「あなた／彼の」	*céu*「空」
pregar「とめる」	*pregar*「説教を行う」

/o/	/ɔ/
avô「祖父」	*avó*「祖母」
pôde「彼はできた」	*pode*「彼はできる」
forma「お菓子などの型」	*forma*「形」
revolta「騒然とした」	*revolta*「暴動・騒乱」
avôs「祖父たち」	*avós*「祖父母／祖母たち」
pousar「置く」	*posar*「ポーズをとる」

5.4.2 ポルトガル変種に特徴的な対立 /ɐ/-/a/

両変種で母音音素体系の対立項の最大数が異なるが（5.4），これはポルトガル変種では狭い **/ɐ/** と広い **/a/** が開きの差によって対立するのに対して，ブラジル変種には中舌の母音音素として **/a/** しか存在しないからである。この対立は，たとえば *-ar* 規則動詞の直説法・現在・1 人称複数形の語尾 *-amos* と直説法・完了過去・1 人称複数形の語尾 *-ámos* において「未完了」と「完了」の弁別などに利用される。

falamos **[fɐˈlɐmuʃ]**「私たちは話す」／ *falámos* **[fɐˈlamuʃ]**「私たちは話した」

ブラジル変種でも，強勢音節では **[ɐ]** と **[a]** の音声的差異が認められるが，この二音は完全な相補分布をなしており，音素 **/a/** の結合異音であると解釈される。同音素は **/m n ɲ/** 以外の非鼻子音音素の前では広い **[a]** で，**/m n ɲ/** の前では狭い **[ɐ]** で実現される (5.5.2)。したがって，ポルトガル変種で弁別されている *-amos* と *-ámos* のどちらにも狭い **[ɐ]** が用いられて同音異義が生じることになり，正書法上の区別も行われていない（*falamos* RJ**[faˈlɐmuʃ]** SP**[faˈlɐmus]**「私たちは話す」／「私たちは話した」)。

5.5 母音音素対立の中和

どちらの変種においても，あらゆる位置で上記の弁別的対立すべてが維持されているわけではない。多くの位置で「開き」による対立が中和して体系が単純化する。中和がよく生じる対立は **/e/-/ɛ/** と **/o/-/ɔ/** であり，位置によっては **/i/-/e/-/ɛ/** や **/u/-/o/-/ɔ/** が中和する場合もある（問題の中和によって生じる原音素を以下ではそれぞれ **/E O I U/** で表記することにする)。ポルトガル変種では対立 **/ɐ/-/a/** も脆弱である（原音素表記は**/A/** とする)。

5.5.1 強勢アクセントと中和

ポルトガル語の場合，母音音素対立の中和をもたらす重要な要因のひとつと考えられるのは，語に固有の強勢アクセント（6.1.1）の存在である。どちらの変種においても，母音音素による弁別の可能性は，語の中でアクセントとどのような位置関係をとるかに大きく支配されている。その可能性は，強勢音節 > 強勢前音節 > 語末から二つめの強勢後音節 > 語末の強勢後音節の順に低くなる。開音節を例にとると次のようになる。

母音音素が対立する位置	ポルトガル変種	ブラジル変種
強勢音節	**/i e ɛ ɐ a ɔ o u/ [i e ɛ ɐ a ɔ o u]**	**/i e ɛ a ɔ o u/ [i e ɛ a ɔ o u]**
強勢前音節	**/i e ɛ ɐ a ɔ o u/ [i ɨ ɛ ɐ a ɔ o u]**	**/i E a O u/ [i e a o u]**
語末から二つめの強勢後音節	**/i E A U/ [i ɨ ɐ u]**	**/i E a U/ [i e a u]**
語末の強勢後音節	**/(i) E A U/ [(i) ɨ ɐ u]**	**/I a U/ [i a u]**

両変種で構造的にもっとも異なるのは強勢前音節である。ブラジル変種ではこの位置で対立するのが 5 音素にすぎない。これは対立 **/e/-/ɛ/** と **/o/-/ɔ/** が中和するからであり（原音素 **/E O/** の音声的実現は一般に **[e o]** である。2.2.2 を参照)，ポルトガル変種ではそれらの対立によって弁別される最小対もブラジル変種では同音異義語の対となる。

これに対してポルトガル変種では，対立の観点からは強勢音節と同じ 8 音素体系が成立し，対立 **/e/-/ɛ/** と **/o/-/ɔ/** に加えて **/ɐ/-/a/** による弁別も可能である。だが，頻度の観点からいうと，語彙 léxico においても実際の発話においても，**/i e ɐ u/** を有する語の割合が **/ɛ a**

ɔ o/ を有する語の割合に比べて圧倒的に高いので，それらの対立には強勢音節におけるほどの機能効率はない。注意すべきは **/e/** の異音で，多くの場合 **[e]** ではなく **[ɨ]** で実現される（*peso* /ˈ**pesU**/ **[**ˈ**pezu]**「重さ」に対して *pesar* /**peˈzaR**/ **[pɨˈzaɾ]**「重い」）。この **[ɨ]** は上の表からわかるように他の無強勢音節にも現れるが，ポルトガルの標準規範をはじめとする諸変種に特徴的な音であって，一般にブラジルの諸変種には聞かれない。

語末から二つめの強勢後音節で対立するのは，どちらの変種でも 4 音素である。

語末の強勢後音節で対立するのは，どちらの変種でも基本的には 3 音素である。ここではポルトガル変種の **/E/ [ɨ]** にブラジル変種の **/I/ [i]** が規則的に対応する（*dente*「歯」P[ˈ**dẽtɨ**] B[ˈ**dẽt͡ʃi**]；*fome*「空腹」P[ˈ**fɔmɨ**] B[ˈ**fomi**]）。前者でもこの位置に **/i/ [i]** が現れるが頻度は低く，日常的な使用域ではしばしば **/E/ [ɨ]** に置き換えられる（*táxi* [ˈ**taksi**] ~ [ˈ**taksɨ**]「タクシー」；*espécie* [ˈ**ʃpɛsi**] ~ [ˈ**ʃpɛsɨ**]「種類」）。

5.5.2 後続子音・音節構造と中和

母音音素対立の中和を条件づけているのは，強勢アクセントとの位置関係だけではない。後続子音と音節構造が弁別の可能性を左右する場合もある。この言語でとくに注目すべきは鼻子音の影響である。ここで記述されている二つの変種では，鼻音性に母音音素の実現を閉じる作用が認められ，それは開音節よりも閉音節で顕著である。

鼻子音原音素 **/N/**（5.13 を参照）が尾部に位置する閉音節では，どちらの変種でも対立 **/e/-/ɛ/** と **/o/-/ɔ/** が中和し，ポルトガル変種ではさらに対立 **/ɐ/-/a/** も中和する。原音素を含む音素連続 **/EN/ /ON/** P/**AN/** (B/**aN/**) は，いずれも狭い鼻母音 **[ẽ] [õ] [ɐ̃]** で実現される（次の 5.6 を参照のこと）。

同じように，鼻子音音素 **/m n ɲ/** の前に位置する強勢開音節でも，ブラジル変種においては原音素 **/E/ /O/** が成立する。音声学的実現は鼻音性の認められる狭い **[e] [o]** で，この位置に広い **[ɛ] [ɔ]** が現れることはない。この位置で **/a/** が狭い **[ɐ]** で実現されるのも鼻音性の影響と考えられる（5.4.2）。

demos /ˈ**dEmUS**/ RJ[ˈ**demuʃ**] SP[ˈ**demus**]「私たちは与える」*dar* の接・現・Ⅰ・複
demos /ˈ**dEmUS**/ RJ[ˈ**demuʃ**] SP[ˈ**demus**]「私たちは与えた」*dar* の直・完過・Ⅰ・複
tomo /ˈ**tOmU**/ **[**ˈ**tomu]**「(書物の) 巻」
tomo /ˈ**tOmU**/ **[**ˈ**tomu]**「私はとる・飲む」*tomar* の直・現・Ⅰ・単

これに対してポルトガル変種では，**/m n/** の前にも広い **[ɛ ɔ]** が現れ，対立 **/e/-/ɛ/** と **/o/-/ɔ/** が維持される（*dêmos* と *demos* の表記の違いに注意）。

dêmos /ˈ**demUS**/ **[**ˈ**demuʃ]**「私たちは与える」*dar* の接・現・Ⅰ・複
demos /ˈ**dɛmUS**/ **[**ˈ**dɛmuʃ]**「私たちは与えた」*dar* の直・完過・Ⅰ・複

tomo /ˈtomʊ/ [ˈtomu]「(書物の) 巻」

tomo /ˈtɔmʊ/ [ˈtɔmu]「私はとる・飲む」*tomar* の直・現・I・単

5.6 二重口母音・単鼻母音・二重鼻母音

ポルトガル語は二重口母音が豊富であり，さらには単鼻母音と二重鼻母音をも有する。これらはそれぞれ音素論的には，母音音素＋/j w/，母音音素＋/N/，母音音素＋/j w/＋/N/ の連続として解釈されうる（単一音素解釈については MADONIA を参照のこと）。可能な音素配列とその音声学的実現は以下のとおりである。

ポルトガル変種		
二重口母音	/ɐj aj ɔj uj iw ew ɛw AW/	[ɐj aj ɔj oj uj iw ew ɛw aw]
鼻母音	/iN EN AN ON uN/	[ĩ ẽ ɐ̃ õ ũ]
二重鼻母音	/AjN OjN ujN AWN/	[ɐ̃j õj ũj ɐ̃w̃]
ブラジル変種		
二重口母音	/ej ɛj aj ɔj uj iw ew ɛw aw ɔw ow uw/	[ej ɛj aj ɔj oj uj iw ew ɛw aw ɔw ow uw]
鼻母音	/iN EN aN ON uN/	[ĩ ẽ ɐ̃ õ ũ]（/EN/ は語末では [ẽj]）
二重鼻母音	/ajN OjN ujN awN/	[ɐ̃j õj ũj ɐ̃w̃]

二重口母音の第二要素 [j w] は音節主音をなさない [i u] で接近音として実現される。単鼻母音・二重鼻母音は，音色の点でそれらに対応する単口母音・二重口母音が完全に鼻音化されたものである。V＋/j w/ の連続に関して両変種で結合許容範囲に差が認められる。ポルトガル変種では前舌の /j/ は非前舌の /ɐ a ɔ o u/ としか結合できず，後舌の /w/ は非後舌の /i e ɛ a/ としか結合できないが，ブラジル変種では */ij/ の組み合わせを除いてすべての母音音素が /j w/ のいずれとも結合可能である。

5.7 ブラジル変種における強勢母音音素の二重母音的実現

ブラジル変種では，語末の強勢音節において母音音素の後に /S/ が続く場合（*cafés* /kaˈfɛS/「喫茶店」複；*luz* /ˈluS/「光」），その母音音素が [j] で終わる二重母音として実現することがある（[kaˈfɛjʃ] ~ [kaˈfɛjs]；[ˈlujʃ] ~ [ˈlujs]）。/S/ の前に /N/ が位置しても同じ現象が観察される（*bons* /ˈbONS/ [ˈbõj̃ʃ] ~ [ˈbõj̃s]「よい」複）。この二重母音化が生じた場合 *paz*「平和」－ *pás*「スコップ」複 － *pais*「両親」などは同音異義語となり（[ˈpajʃ] ~ [ˈpajs]），[j] はこの環境で弁別的価値を失うことになる。この現象は，リオ・デ・ジャネイロ以北ではきわめて一般的であるが，サン・パウロ以南では，むしろ単母音として実現されるほうが標準的である（*cafés* [kaˈfɛs]；*luz* [ˈlus]；*bons* [ˈbõs]；*paz* [ˈpas] － *pás* [ˈpas] － *pais* [ˈpajs]）。

ポルトガル変種でもこのような二重母音化は一般に認められない（*cafés* [kɐˈfɛʃ]；*luz* [ˈluʃ]；*bons* [ˈbõʃ]；*paz* [ˈpaʃ] － *pás* [ˈpaʃ] － *pais* [ˈpajʃ]）。

5.8 ポルトガル変種における無強勢母音の弱化・無声化・脱落

同じ語彙項目を両変種で突き合わせると，強勢前音節ではブラジル変種の **[e a o]** にポルトガル変種の **[ɨ ɐ u]** が対応するのが一般的であり，語末から二つめの無強勢音節では前者の **[e a]** に後者の **[ɨ ɐ]** が，語末の無強勢音節では前者の **[i a]** に後者の **[ɨ ɐ]** がほぼ規則的に対応する。この関係を *meter*「入れる」; *gastar*「費やす」; *morar*「住む」; *pêssego*「桃」; *pássaro*「鳥」; *neve*「雪」; *data*「日付」を例に示すと次のようになる。

ブラジル変種	m[**e**]ter	g[**a**]star	m[**o**]rar	pêss[**e**]go	páss[**a**]ro	nev[**i**]	dat[**a**]
ポルトガル変種	m[**ɨ**]ter	g[**ɐ**]star	m[**u**]rar	pêss[**ɨ**]go	páss[**ɐ**]ro	nev[**ɨ**]	dat[**ɐ**]

この対応関係はポルトガル変種に生じた史的音変化が主因であるが，聴覚レベルにおける今日の両変種の差異を理解する上で非常に重要である。ブラジル変種の **[i e a o]** に対してポルトガル変種の **[ɨ ɐ u]** は狭くて聞こえ度が低く張りがない。さらに後者では強勢アクセント（6.1.1）の影響によって狭母音 **[i ɨ u]** が無声化したり，その弁別特徴を前後の子音音素の実現に転移させて消失するなどといった同時調音現象が発話レベルで頻繁に生じるために，両者の聴覚的印象は一般の日本語話者にとってかなり異なっている。

子音音素体系の特徴についての記述

5.9 子音体系の概略

両変種ともに日本語よりやや多い 21 の子音音素を有し，このうち母音間の音節初頭では最大数の 19 音素が対立する。他方，音節末尾では，開音節優勢の傾向と合致して，ポルトガル変種で 6 音素，ブラジル変種で 5 音素が対立するだけである。

5.10 子音音素目録

子音音素による弁別の可能性は，音節内でどこに位置するかによって異なる。以下では最も多くの子音音素が対立する音節初頭に現れる音素に **/j w/** を加えて提示する。他の位置における子音音素の対立やその中和・原音素の成立などについては順を追って解説を加えることにする。また，両変種は体系レベルでの相違点は皆無に等しいので，まとめて提示することにする（略号 P, B, P&B については 3.1 を見よ）。

音素	変種	異音とその環境	用例
/p/	P&B	**[p]**	P[ˈ**patɐ**] B[ˈ**pata**] *pata*（「(動物の) 脚」）
/b/	P	**[b]** 音声発出の直後か鼻母音の後	[ˈ**batɐ**] *bata*（「上っ張り」）
		[β] その他の位置	[ˈ**kaβu**] *cabo*（「ケーブル」）
	B	**[b]**	[ˈ**bata**] *bata* ; [ˈ**kabu**] *cabo*
/m/	P&B	**[m]**	[ˈ**ɐmu**] *amo*（「主人」）

/f/	P&B	**[f]**	P[ˈ**fakɐ**] B[ˈ**faka**] *faca*（「ナイフ」）
/v/	P&B	**[v]**	P[ˈ**vakɐ**] B[ˈ**vaka**] *vaca*（「牝牛」）； [ˈ**kavu**] *cavo*（「くぼんだ」）
/t/	P	**[t]**	[ˈ**gatu**] *gato*（「猫」）；[ˈ**tiu**] *tio*（「おじ」）
	B	**[t]**	[ˈ**gatu**] *gato*
		[t͡ʃ]：**[i ĩ]** の前のみ	[ˈ**t͡ʃiu**] *tio*
/d/	P	**[d]**：音声発出の直後か鼻母音の後	[ˈ**datɐ**] *data*（「日付」）；[ˈ**diɐ**] *dia*（「日」）
		[ð]：その他の位置	[ˈ**gaðu**] *gado*（「(家畜の) 群」）
	B	**[d]**	[ˈ**data**] *data*；[ˈ**gadu**] *gado*
		[d͡ʒ]：**[i ĩ]** の前のみ	[ˈ**d͡ʒia**] *dia*
/n/	P&B	**[n]**	[ˈ**ɐnu**] *ano*（「年」）
/l/	P&B	**[l]**	P[ˈ**falɐ**] B[ˈ**fala**] *fala*（「話すこと」）
/ɾ/	P&B	**[ɾ]**	[ˈ**kaɾu**] *caro*（「高い」）
/r/	P	**[ʀ]**	[ˈ**kaʀu**] *carro*（「車」）
	B	**[x]**	[ˈ**kaxu**] *carro*
/s/	P&B	**[s]**	P[ˈ**kasɐ**] B[ˈ**kasa**] *caça*（「狩り」）； [ˈ**sa**] *Sá*（「(人名)」）
/z/	P&B	**[z]**	P[ˈ**kazɐ**] B[ˈ**kaza**] *casa*（「家」）； [ˈ**zelu**] *zelo*（「熱意」）
/ʃ/	P&B	**[ʃ]**	P[ˈ**kɐjʃu**] B[ˈ**kejʃu**] *queixo*（「下顎」）； [ˈ**ʃa**] *chá*（「茶」）
/ʒ/	P&B	**[ʒ]**	P[ˈ**kɐjʒu**] B[ˈ**kejʒu**] *queijo*（「チーズ」）； [ˈ**ʒelu**] *gelo*（「氷」）
/ɲ/	P&B	**[ɲ]**	[ˈ**ɐɲu**] *anho*（「仔羊」）
/ʎ/	P&B	**[ʎ]**	P[ˈ**faʎɐ**] B[ˈ**faʎa**] *falha*（「失敗」）
/k/	P&B	**[k]**	P[ˈ**kɐmɐ**] B[ˈ**kɐma**] *cama*（「ベッド」）
/g/	P	**[g]**：音声発出の直後か鼻母音の後	[ˈ**gɐmɐ**] *gama*（「音階；範囲」）
		[ɣ]：その他の位置	[ˈ**gaɣu**] *gago*（「吃る人」）
	B	**[g]**	[ˈ**gɐma**] *gama*；[ˈ**gagu**] *gago*
/j/	P&B	**[j]**：音節尾部	[ˈ**paj**] *pai*（「父親」）
/w/	P&B	**[w]**：音節尾部と **/k g/** の後	[ˈ**paw**] *pau*（「棒」）；[ˈ**kwẽdu**] *quando*（「いつ」）

5.11 IPA の子音一覧表による異音の表示

	両唇	唇歯	歯	歯茎	後部歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	喉頭	声門
破裂音	**p b**			**t d**				**k g**			
鼻音	**m**			**n**			**ɲ**				
ふるえ音									**ʀ**		
はじき音				**ɾ**							
摩擦音	**β**	**f v**	**ð**	**s z**	**ʃ ʒ**			**x ɣ**			
側面摩擦音											
接近音							**j**				
側面接近音				**l**			**ʎ**				

	両唇軟口蓋
接近音	**w**

5.12 音節頭部の子音音素体系

母音間に位置する音節初頭では，どちらの変種でも，最も多い19音素 **/p b m f v t d n ɾ r l s z ʃ ʒ ɲ ʎ k g/** が対立する（*capelo, cabelo, amo, chufa, chuva, gato, gado, ano, caro, carro, fala, caça, casa, queixo, queijo, anho, falha, seca, cega*）。これらは，ブラジル変種では一般に **[p b m f v t d n ɾ x l s z ʃ ʒ ɲ ʎ k g]** で実現されるのに対し，ポルトガル変種ではふつう **[p β m f v t ð n ɾ ʀ~r l s z ʃ ʒ ɲ ʎ k ɣ]** で実現される。母音間ではない場合 **/ɲ ʎ/** は一般に分布の欠如を示し，対立 **/ɾ/-/r/** は中和する（5.13 と 5.13.2 を参照）。

5.12.1 /t d/ の実現：結合変異

ブラジル変種の **/t d/** は **[i ĩ]** の前で強く硬口蓋化され，**[tʲ dʲ]** や，さらには完全な破擦音 **[t͡ʃ d͡ʒ]** として実現される。硬口蓋化・破擦化の度合いは地域・個人によって差があるが，リオ・デ・ジャネイロとサン・パウロでは **[t͡ʃ d͡ʒ]** が一般的な実現である（5.6 の例の他に *gente* **[ˈʒẽt͡ʃi]**「人々」；*rede* **[ˈxed͡ʒi]**「網」；*tinta* **[ˈt͡ʃĩta]**「インク」；*pediu* **[piˈd͡ʒiw]~[peˈd͡ʒiw]**「彼は頼んだ」など）。他方，ポルトガル変種の標準的発音では **/t d/** がこの位置で破擦化されて実現することはない（*tio* **[ˈtiu]**；*dia* **[ˈdiɐ]**；*tinta* **[ˈtĩtɐ]** など）。

5.12.2 /b d g l/ の実現：結合変異

ポルトガル変種の **/b d g/** は，音声発出の直後と鼻母音の後では閉鎖音 **[b d g]** として実現されるが（*boca* **[ˈbokɐ]**「口」；*um dia* **[ũˈdiɐ]**「ある日」；*língua* **[lĩgwɐ]**「言語」），その他の位置では調音が弛緩して接近音 **[β ð ɣ]** で実現されることが多い（*rabo* **[ˈʀaβu]**「尾」；*Lisboa* **[liʒˈβoɐ]**「リスボン」；*padre* **[ˈpaðɾi]**「神父」；*o dia* **[uˈðiɐ]**「その日」；*delgado* **[dɛɫˈɣaðu]**「薄い」）。これに対してブラジル変種では，すべての位置において **[b d g]** で（**/d/** は **[i ĩ]**

の前では **[d͡ʒ]** で）実現されるのが一般的である（*rabo* **[ˈxabu]**；*Lisboa* RJ**[liʒˈboa]** SP**[lizˈboa]**；*padre* **[ˈpadɾi]**；*o dia* **[uˈd͡ʒia]**；*delgado* **[dewˈgadu]**）。

/l/ は母音間に位置する場合，どちらの変種においても，程度の差はあれ多くの個人語で軟口蓋化されて実現される（*falo* **[ˈfaɫu]**「私は話す」）。

5.12.3 /r ɾ/ の実現：地域変異～個人変異

多顫動音の **[ʀ r]** は，**/r/** の個人異音であり，主としてポルトガル変種で用いられる。今日では，伝統的な舌尖の **[r]** に対して口蓋垂の **[ʀ]** が優勢であり，さらに，とくに近年リスボン一帯においては，後者が摩擦化した **[ʁ]** も一般化してきている。これに対してブラジル変種の場合，**/r/** の実現として最も一般的なのは **[ʁ]** が無声化した **[x]**，さらには **[h]** であり，今日，リオ・デ・ジャネイロやサンパウロで **[r ʀ]** を耳にするのはまれである。他方 **/ɾ/** はどちらの変種においても舌尖の単顫動音 **[ɾ]** で実現される。この **/r/** と **/ɾ/** が弁別的に対立するのは母音間（*carro - caro*）および **/j/** の後（*(b)airro*「地区」- *(C)airo*「カイロ」）だけで，他の音コンテクストでは対立が中和する（5.13 を参照）。

5.12.4 /ɲ/ の実現：地域変異

ブラジル変種では，日常的な使用域において，**/ɲ/ [ɲ]** が閉鎖要素を失って鼻音化された接近音 **[j̃]** で実現されることが多い（*tenho* **[ˈtẽɲu] ~ [ˈtẽj̃u]**「私は持っている」；*sonhar* RJ**[soˈɲax] ~ [sõˈɲax] ~ [sõˈj̃ax]** SP**[soˈɲaɾ] ~ [sõˈɲaɾ] ~ [sõˈj̃aɾ]**「夢を見る」）。**/ɲ/** が **[j̃]** で実現される場合，直前の母音音素の実現は常に鼻音化されている。他方，ポルトガル変種では **/ɲ/** は **[ɲ]** で実現される（*tenho* **[ˈtɐ(j)ɲu]**；*sonhar* **[suˈɲaɾ]**）。

5.13 音節構造と子音音素の対立

音節末尾で対立する子音音素は，ブラジル変種では **/S R N j w/** で表記されうる 5 音素だけであり（*paz* **/ˈpaS/**「平和」；*lar* **/ˈlaR/**「家庭」；*lã* **/ˈlaN/**「羊毛」；*pai* **/ˈpaj/**「父親」；*pau* **/ˈpaw/**「棒」），ポルトガル変種でも，それらに **/L/**（*mal* **/ˈmAL/**「悪」「悪く」）を加えた 6 音素に過ぎない。すべてが継続音であり，**/S/** を除くすべてが鳴音である。この位置に阻害性の強い **/p b f v t d k g/** が現れることはなく，これはポルトガル語で開音節が支配的である傾向（4.3）に一致している。上記 6 音素のうち **/S R L N/** は，対立 **/s/-/z/-/ʃ/-/ʒ/**, **/ɾ/-/r/**, **/l/-/ʎ/**, **/m/-/n/-/ɲ/**（最小対は 5.6 を参照のこと）がそれぞれ中和して生じる原音素である。**/S N/** は音節尾部にしか現れないが，**/R L/** はその他の位置にも現れうる。

5.13.1 /L N/ の実現

ポルトガル変種において **/L/** は音節末では強く軟口蓋化された **[ɫ]** で（*mel* **[ˈmɛɫ]**「蜂蜜」），音節初頭子音 **/p b f t k g/** の後では **[l]** で実現される（*flor* **[ˈflɔɾ]**「花」）。他方，ブラジル変種は音節末に **/L/** を欠いているが，これは音節末の **l [ɫ]** が **[w]** に変化したことに

よって，対立 **/L/-/w/** が多くの個人語において不可能になっているからである。

たとえば，ポルトガルでは今日でも *mal* [ˈmał]「悪く」「悪」と *mau* [ˈmaw]「悪い」が最小対をなすが，ブラジルでは多くの個人語において同音語 [ˈmaw] であり，そのため，子供による綴りの間違いも頻発している。l [ł] > [w] の音声変化はブラジル全土にわたって完全に終了したわけではないが，最南部の規範（ポルト・アレーグレ）を除き，今日では [w] が一般的な発音である（2.2.2）。

鼻子音原音素の **/N/** は，どちらの変種においても，直前の母音音素の実現における鼻音性として実現される（5.6 を参照のこと）。

5.13.2 /S R/ の実現

この 2 音素の実現に関して，ポルトガル変種（P），ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ変種（RJ），サン・パウロ変種（SP）の間で異同がみられる。

/S/ の実現は，ブラジルの中部以北，とくにリオ・デ・ジャネイロ変種とポルトガル変種で同一である（**/S/** の実現である [ʃ ʒ] は，**/ʃ ʒ/** の実現である [ʃ ʒ] と同じく一般に円唇性を伴わない）。これに対してミーナス・ジェライス変種を含むサン・パウロ以南の変種においては，無声子音と休止の前では [s] で，有声子音の前では [z] で実現される（2.2.2 を参照のこと）。

/S/ の実現

音コンテクスト	P&RJ	SP	例
無声子音と休止の前	[ʃ]	[s]	*festa*「パーティー」; *voz*「声」
有声子音の前	[ʒ]	[z]	*mesmo*「同じ」
母音で始まる他の語の前	[z]	[z]	*voz alta*「高い声・大声」

/R/ の実現形は，ポルトガル変種とサン・パウロ以南の変種で同一の分布を示す。語頭および **/L S N/** の直後に位置する場合は **/r/** の実現と同一であり，その他の位置では **/ɾ/** の実現と同一である。これに対してミーナス・ジェライス変種を含むリオ・デ・ジャネイロ以北の変種では，**/R/** が音節末尾でも **/r/** の実現と同じ [x] で実現される。無声子音の前および語末では [h] で実現されることも多く（*carta*；*dizer*），語末では完全に脱落することもある（*dizer*）。

/R/ の実現

音コンテクスト	P	SP	RJ	例
語頭と /L S N/ の直後	[R]	[x]	[x]	*rede*「網」; *guelra*「(魚の) えら」; *Israel*「イスラエル」; *genro*「婿」
音節初頭子音の直後	[ɾ]	[ɾ]	[ɾ]	*prato*「皿」
音節尾部	[ɾ]	[ɾ]	[x]	*dizer*「いう」; *carta*「手紙」

5.14 語中音添加による子音群の破壊と音節の再構成

子音群 CC の組み合わせとして一般的なのは，音節頭部では **/p b f v t d k g/ + /R/, /p b f k g/ + /L/** と **/kw gw/** であり（*prato*「皿」；*quatro*「4」；*esclarecer*「明らかにする」など），音節尾部では **/NS jN wN jS wS/** である（*sons*「音」；*põe* /ˈ**pOjN**/「彼は置く」；*pais*「両親」など）。

しかしながら，ポルトガル変種では，頻度こそ低いとはいえ，前者として **/pt ps bv bt bd bs …/**（*admitir* /**ɐ.dmi-**/「認める」；*advogado* /**ɐ.dvu-**/「弁護士」；*observar* /**O.bseR-**/「観察する」；*ritmo* /ˈ**Ri.tmU**/「リズム」；*apto* /ˈ**a.ptU**/「適した」）や，後者として **/bS dS/**（*obstáculo* /**ObSˈta-**/「障害」；*adstringente* /**ɐdS.tRiN-**/「収斂剤」）など阻害音＋阻害音の連続が可能である。

他方，ブラジル変種ではこうした子音群は日常の使用域では避けられ，**[i]** や **[e]** の挿入によって子音連続が破壊されて音節構造が作り変えられるのが一般的である。（*a.**dmi**.tir* > *a.**di.mi**.tir*；*a.**dv**o.ga.do* > *a.**di.v**o.ga.do* ~ *a.**de.v**o.gado*；*o.**bs**er.var* > *o.**bi.s**er.var*；*ri.**tm**o* > *rí.**ti.m**o*；*a.**pt**o* > *á.**pi.t**o*；*o**bs**.tá.cu.lo* > *o.**bis**.tá.cu.lo*；*a**ds**.trin.gen.te* > *a.**dis**.trin.gen.te*）。

6 ポルトガル語のアクセント・イントネーション・リズム

6.1 強勢アクセント

ポルトガル語は「語」のレベルにおいて，制限つきながら，自由アクセントを有する言語である。アクセントを特徴づけるのは聴覚的には音の大きさ（音量）であり，いわゆる強勢アクセントに該当する（音響的特性は「持続時間による強度の積分としての音響エネルギー」あるいは「持続時間」あるいは「これら２つの要素が結びついたもの」である）。基本周波数の変動によるピッチ変化は，語レベルでのアクセント配置には関与せず，それとは独立して文のレベルでイントネーションの要素として機能すると考えられている（CÂMARA 1972；MARTINS 1983）。

ブラジル変種と比較した場合，ポルトガル変種ではアクセントによって強勢音節と無強勢音節の間にはるかに強い対比がもたらされ，無強勢の母音音素がその実現において弱化・無声化したり，その弁別特徴を前後の子音音素の実現に転移させて消失するなどといった現象が観察される（5.8）。

6.1.1 語アクセントの位置

アクセント単位，すなわちアクセントによる対比の対象となりうる単位の多くは，いわゆる「語」に一致し，その場合，末尾第１音節（*sabiá*：－－ˈ－），末尾第２音節（*sabia*：－ˈ－－），末尾第３音節（*sábia*：ˈ－－－）のいずれかにアクセントを受ける（音節については **4** を参照のこと）。これらの 3 つのアクセント図式のうち，末尾第 2 音節にアクセントを受けるものが規準形である。形態論的な観点からは，名詞・形容詞の場合は語基の最終母音を含む音節が，動詞の場合は語幹形成母音を含む音節が強勢母音となることが多い。

他方で，伝統的に「語」と呼ばれている単位の中には，２つ以上のアクセント単位を含むものや（ˈ***quatro***ˈ***centos***, ˈ***greco-la***ˈ***tino***, *i*ˈ***gual***ˈ***mente***, ˈ***chavena***ˈ***zinha***, ˈ***vê-lo-***ˈ***ei***），通常

はそれ自身ではアクセントを受けずに，前後にある他の語と一体となって１つのアクセント単位を構成する後接語（*a, de, em, o, por, um, …*）や前接語（*-me, -a, -nos, -vo-la, -se, …*）も存在する。末尾第４音節（***dá**vamo-lo* : ˈ－－－－）や末尾第５音節（***dá**vamo-no-lo* : ˈ－－－－－）にアクセントを受けうるのは，前接語を含むアクセント単位だけであるが，この形は形態・統辞論的な理由からブラジル変種ではあまり用いられない。

6.1.2 アクセント図式の機能

この言語では，語の音韻構造がアクセントの位置を自動的に決定しているわけではないので，その差は弁別的に機能する。たとえば，記号表現が同じ音素連続で構成されながら，アクセント図式の対立によって弁別される語の対が存在する（*sen**ˈtir**am*「彼らは感じた」*sentir* の直・完過・Ⅲ・複 ― *senti**ˈrão***「彼らは感じるだろう」*sentir* の直・未来・Ⅲ・複；***ˈtú**nel*「トンネル」― *to**ˈnel***「樽」）。さらに重要なのは，アクセントの位置を誤ると，ある語の同一性認定が，その語と同じ音素連続で構成されながらアクセント図式によって異なる他の語が存在しない場合ですら困難になることである。これは，語の記号表現を構成するアクセント図式が，その音素連続と同じく弁別同定機能を担っていることを示している。

6.1.3 音調群と強勢音節

２つ以上の強勢音節を含む文（***ˈHoje** à **ˈnoite** **ˈhá** uma se**ˈssão** de ci**ˈne**ma*）においては，多くの場合，いくつかの強勢音節がその他の強勢音節よりも強いアクセントを受けているように聞こえる（*ˈHoje à **ˈNOIte** ˈhá uma se**ˈssão** de ci**ˈNE**ma*）。これは，問題の文が，話し手により，情報単位であるいくつかの音調群 grupo tonal に分割され（*Hoje à noite ‖ há uma sessão de cinema*），それぞれの音調群において，そこに含まれる強勢音節の１つの上で，イントネーション（6.2）における大きなピッチ変化や音節の引き伸ばしなどが生じているからである（*ˈnoi-, -ˈne-*）。このような現象は，音調群の内部に特に協調する必要のある語がない場合は，ふつう音調群の最後の強勢音節で起こることが多い。

6.2 イントネーション

イントネーションは，それ自体が表意単位に対応する点で 6.1 で述べたアクセントとは異なる。音響的には，発話の中で時間軸にそって変動する基本周波数・持続時間・強度がその構成要素である。

イントネーションによる記号の意味内容は多種多様であるが，そのうち基本的な記号である「平叙」と「疑問」の対立に直接的に関与するのは，基本周波数の変動によるピッチ変化である。前者は，文中最後の音調群（6.1.4）におけるピッチの下降によって（*Ele vem.*［＋下降］「彼は来る」（平叙）），後者はその上昇によって表出されるのが一般的である（*Ele vem?*［＋上昇］「彼は来る？」（疑問））。

ポルトガル語では主部と述部の倒置が「疑問」を示す手順とはなり得ず，主としてピッ

チの上昇によって「疑問」が示される（*Vem ele.*［＋下降］「来るのは彼である」－ *Vem ele?*［＋上昇］「来るのは彼か？」）。しかしながら，その他の統辞的・語彙的手順によって「疑問」が明らかな場合は，「平叙」と同様の下降調イントネーションをとることが多い（***Quem** saiu?*［＋下降］「**誰が**出ていったの？」）。また，文脈や状況が「疑問」を示す上昇調の実現を余剰とする場合もあり，たとえば付加疑問部は往々にして［＋上昇］をともなわずに実現される（*Ele vem, **não é? / não vem?***「彼は来るんだよね？」）。

この他にも，イントネーション記号には「疑い」「怒り」「皮肉」「軽蔑」「強調」といった話者の心的態度を表出するものがある（*Ele é es**tuuu**pido!*［＋下降］［強勢音節-*tu*-の引き伸ばしと強め］「彼は（本当に）ばかだ！」（平叙＋強調）など）。

6.3 リズム

この言語では一般に発話の中で強勢音節と無強勢音節（群）が交互に現れる（*ˈ**Faz** faˈ**vor**, ˈ**po**de diˈ**zer**-me a que ˈ**ho**ras ˈ**a**bre a ˈ**lo**ja?*「すみませんが,何時にお店が開くか教えてくださいますか？」）。このとき，標準的な話し方では，強勢音節と強勢音節との時間的間隔がその間に含まれる無強勢音節の数とは無関係に一定に保たれる傾向（強勢拍リズム stress-timing rhythm）が認められる。

参考文献

ANDRADE, Amália e Maria do Céu VIANA (1996): *Introdução à Linguística Geral e Portuguesa.* Organização de Isabel Hub Faria, Emília Ribeira Pedro, Inês Duarte & Carlos Gouveia. Lisboa, Editorial Caminho.

BARBOSA, Jorge Morais (1983): *Études de phonologie poutugaise.* 2.ème éd. Évora, Universidade de Évora, Divisão de Línguas e Literatura.

BARBOSA, Jorge Morais (1988): "Notas sobre a pornúncia portuguesa nos últimos cem anos." In : *Biblos* LXIV. Coimbra, Universidade de Coimbra, pp.329-382.

BARBOSA, Jorge Morais *Fonologia e Morfologia do Português.* Coimbra, Livraria Almedina, (1994).

BARBOSA, Jorge Morais (1994): "Portugiesisch : Phonetik und Phonemik. / Intonations- forschung und Prosodie." In: *Lexikon der Romanis tischen Linguistik.* Ed. HOLTUS, Günter, Michael METZELTIN & Christian SCHMITT. Vol. VI, 2, Tübingen, Max Niemeyer Verlag, § 418, pp. 130-148.

CALLOU, Dinah, João MORAES e Yonne LEITE (1994): "Para uma nova dialectologia : a realização do *S* e do *R* posvocálicos no português do Brasil." In : *Actas do Congresso Internacional sobre o português*, vol.III. Lisboa, A.P.L. e Edições Colibri, pp.405-413.

CÂMARA Jr., Joaquim Mattoso (1977): *Para o Estudo da Fonêmica Portuguesa.* 2.ª ed. Rio de Janeiro, Padrão Editora.

CÂMARA Jr., Joaquim Mattoso (1992): *Estrutura da Língua Portuguesa.* 21.ª ed. Petrópolis, Rio de Janeiro, Editora Vozes.

CÂMARA Jr., Joaquim Mattoso (1972): *The Portuguese Language.* Chicago, University of Chicago Press,.

CINTRA, Luís Filipe Lindley (1995): "Nova proposta de classificação dos dialectos galego--portugueses." In : *Estudos de Dialectologia Portuguesa.* 2.ª ed. Lisboa, Livraria João Sá da Costa, pp.117-163.

CUNHA, Celso (1985): "O projecto NURC e a questão da norma culta brasileira." In : *Actas do Congresso sobre a situação actual da língua portuguesa no mundo*, vol.I. Lisboa, Instituto de Cultura e Língua Portuguesa, pp.140-173.

LÜDKE, Helmut (1952): "Fonemática Portuguesa. I. Consonantismo." In : *Boletim de Filologia* XIII. Lisboa, pp.273-288 ; "II. Vocalismo." In : *Boletim de Filologia* XIV. Lisboa, 1953, pp.197-217.

MADONIA, Giovanna (1968): "Les diphtongues décroissantes et les voyelles nasales du portugais." In : *La linguistique* 1, pp. 129-132, Paris.

MARTINS, Maria Raquel Delgado (1992): *Ouvir Falar : Introdução à Fonética do Português.* 2.ª ed. Lisboa, Editorial Caminho.

MARTINS, Maria Raquel Delgado (1983): *Sept études sur la perception : accent et intonation du portugais.* 2.ª ed. Lisboa, Publicação do Loboratório de Fonética da Faculdade de Letras da Universidade de Lisboa.

MATEUS, Maria Helena Mira & Ernesto d'Andrade PARDAL (2002): *The Phonology of Portuguese.* Oxford University Press.

MATEUS, Maria Helena Mira, Ana Maria BRITO, Inês Silva DUARTE e Isabel Hub FARIA (2003): *Gramática da Língua Portuguesa.* 5.ª ed. revista e aumentada., Lisboa, Editorial Caminho.

PARDAL, Ernesto d'Andrade (1977): *Aspects de la phonologie (générative) du portugais.* Lisboa, INIC.

TEYSSIER, Paul (1985): *Manuel de langue portugaise : Portugal-Brésil.* 2.ème éd. revue et corrigée. Paris, Klincksieck.

VIANA, Aniceto dos Reis Gonçalves (1973): *Estudos de Fonética Portuguesa.* Lisboa, Imprensa Nacional - Casa da Moeda.

VIGÁRIO, Maria e Isabel FALÉ (1994): "A sílaba do português fundamental : uma descrição e algumas considerações de ordem teórica." In : *Actas do 9º Encontro da Associação Portuguesa de Linguística.* Lisboa, Edições Colibri, 1994, pp.456-478.